



ニュース
NEWS

レター
LETTER

No.32

2013年2月10日



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、16名の方々に出席していただいた里山ネットワーク世屋の設立総会から、昨年の12月で10年目に入りました。会員の皆様に NPO 法人里山ネットワーク世屋の現状をお伝えしたいと思います。

1~2年前から財政状況を考えると里山ネットワーク世屋が赤字になってしまう懸念がでてまいりました。事業を何もしなくても拠点ブータンを維持するだけで年間25万円（インターネット関連がその内の半分）ほどの経費がかかります。これに対して収入は会費が9万円。今年は京都府の里の仕掛け人事業でブータンに居所をかまえる山形歩さんから家賃として30万円ほど入る予定ですが、来年以降はどうなるかわかりません。里山ネットワーク世屋が行事を行なって参加料を徴収しても利益が出せるまでになっていないのが現状です。

設立当初は事務局員もいなくて、理事の方々が交代で行事を企画、運営しました。皆さんご存知のように NPO 法人里山ネットワーク世屋は活動資金がほとんどありません。資金も入会金と会費収入しかなく、手弁当で事業を行なっていただきました。松尾で米作りをしている小林さんや橋本さんが自分たちで作ったお米を安い価格で里山ネットワーク世屋に卸していただき、利益が出るようにしていただいたこともありました。世屋地区の運動会にはカレーライスを作り、収益を里山ネットワークに入れていただきました。財団法人京都オムロン地域協力基金から『ヒューマンかざぐるま賞』を受賞した時は副賞として100万円をいただきました。

磯田（現小山）さんや永久さんを事務局員として雇うことができたのは、主に三好先生が京都府から請け負った事業を NPO に回していただいたお陰でありました。しかし、京都府からの事業も昨年までで終了したため、永久さんは今年4月に辞めていただきました。

過去には手間のかかる申請書を提出し、セブンイレブン緑の基金から3年連続50万円の助成金をいただきノコギリなど資材の購入にあてました。ただ、どこからの補助金も使う用途が限定され、人件費、水道光熱費、電気代、電話料、ネット接続料などに使うことができないのが現状です。手間のかかる申請書を書いて入ってきたものが、そっくり出てしまいます。事務の手間が増えるだけなのです。

行政は事業をするのに NPO を窓口、ということで声がかかることが多いのですが、入金事業が終わって4~5ヵ月後、中には8ヵ月後というのもあります。昨年度の限界集落新規就農者育成事業、除雪ボランティア事業も京都府から入った金額がそのまま出て行くということで、NPO にとっては煩雑な事務手続きをするだけでメリットがないのです（除雪などは世屋地区の方々に喜んでいただきましたが）。

里山ネットワーク世屋が設立された頃と現在の上世屋の状況も変わってきております。棚田の維持では飯尾醸造に加えて合力の会が、世屋地区の案内はエコツーリズムが活躍されています。こういうことをふまえて、これからも会員が参加して楽しい事業を会員の皆さまから提案していただき、実施していけたらと考えております。

2013年1月吉日 理事長 飯尾 毅

■□活動報告□■

2012. 8. 12～15 エアコンのない世屋高原で過ごす里川・里山なるほどエコツアー

【主催】世屋の里川を考える会(世屋地区の里川環境の保全を目的として、NPO里山ネットワーク世屋、上世屋自治会、京都大学、京都府立大学、京都府 丹後土木事務所、宮津市が結成した事業協議体です)

「世屋高原で過ごす里川・里山なるほどエコツアー」に参加して

竹内 啓子さん

今年のゴールデンウィークに世屋を訪れた折、しおぎり荘に宿泊したのがご縁でこの度のツアーに参加することとなりました。今回も前回同様、専門家・達人 方の案内付きというところが魅力で、どれもこれも面白そうな内容で我々がまだ体験したことのないプログラムばかりでしたので、すぐさま応募しました。

我が家に関していえば、これまではいくら素晴らしい地を訪れても、漫然と見て歩いて写真を撮るのが関の山で、息子に深い感銘を与えてやることも出来ずに 帰ってくるだけの繰り返しでした。それが、前回、天橋立や世屋を訪ね、初めてガイドさんの懇切丁寧な説明を受けながら見て触れて聞いて歩いたことが、親も 息子も「面白い」、「もっと知りたい」、「また来たい」と思ったひとつのきっかけでした。また、息子がかねてから田舎体験をしたいと懇願していた折に、世屋という場所を選んだことは最上の選択だったと思います。

さて、今回のツアーですが、実際、私たちだけでは行くことのできない、貴重な場所ばかりに案内してもらい、さらに地元の住人の方に歴史や文化などについて 話をしていただき、期待以上のもので、正直そこまでしていただけるのかと驚かせられました。私に関しましては、以前から樹木や草花を見分けられるようになりたいという思いが強く、一度詳しい人について山を歩きたいという願望が常々ありましたので、「里山の植物に親しもう！」は、まさに期待通りの大変嬉しい プログラムでした。今回のように、専門家の先生に木や草花の名前や特徴を解説していただきながら、一緒に里山を歩けたことは、私にとって大変贅沢な時間でした。勝手な希望を述べさせていただきますと、またこのような企画を是非ともお願いしたいものです。

また、地元の方と直接触れ合う機会が持てたことは大変リアリティーがあって、村”そのものに自分たちも溶け込んでいるような気分になりました。古い写真を交えての現地での説明の際は、私なりに想像したその頃の情景が目の前に浮かんできました。いずれは自分たちだけでも十分歩いて回れるくらいにまで、世屋に詳しくなりたいと思いました。

一方、ツアーの最終日の「里川と水の景観を考えよう！」では、ツアー参加者も“里川づくりに意見参加”ということで、これも今回のツアーならではの魅力的なプログラムであると思いますが、地元の方のニーズや、歴史、文化なども十分踏まえたうえでないと、“里川整備”という部分だけに目を向けて意見を述べるとするのは難しいと感じました。まだまだ世屋のことを知り尽くしていないよそ者が意見を述べられるとしたら、観光客としての視点はあるかと思いますが、世屋の自然、景観などの財産を次代にしっかり引き継いでほしいという思いが強いだけに、安易な意見は述べられないな と、正直少し戸惑いを覚えました。

以上が、今回のツアーに参加させていただいた率直な感想ですが、私たちのような立場の者が、今後も引き続き、世屋と関わっていききたい(世屋をもっとよく知りたい)と思った場合に、どのようなアプローチの仕方があるのかなどについてもお示し頂きたかったと思いました。今回のツアーでの体験がその場限りのものとならず、家族間でも共有し合い、さらには、今後につなげられればどんなに素敵なことかと思ったからです。また、世屋でお会いした方々はどの方も、それぞれに印象深く、大いに感銘、影響を受けました。自然に親しむだけでなく、“人との交流”も大きな要素となったツアーであったと思います。

末筆ながら、今回のツアーで出会った先生方や地元の皆様に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

2012. 10. 22 【受入れ】日本旅行・サクラアートサロン様

関東からサクラアートサロンの皆さんが上世屋に来られました。

3泊4日の旅。前日は美山へ、明日は伊根とのこと。

11時～12時の村中散策のガイドを依頼され、小山と一緒に上世屋をぐるっと歩いていただいた後は、世屋高原休憩所で昼食。その後は15時30分頃まで各々スケッチを楽しみました。



2012. 11. 17 里山のきのこ観察とお話し会

会員：安田潤さん（京丹後市）



名刺交換をしてどうぞよろしく！と知り合いとしてつきあいを始める、これは海のものでも山のものでも同じです。友達になるためには、まず名前。キノコとはかねがね友達になりたいと願っていました。

私たちは世屋の里でエコツーリズムが、定着するかどうか試み中です。宮津のエコツーリズムは、海と里と山のつながりがコンパクトに見ることができるということをコンセプトにしていますので、エリアが山であっても、絶えず海への意識を忘れてはいけないと思っています。海と山は最終分解者の菌類があって結ばれている、そこは分かっているのです。

しかし、どうもうまく友達になれない。原因はキノコの側に在ります。姿形が違っていても同じもの、逆に同一のものでも似ても似つかない、わたしは誰でしょう？と問いかけてくる。ふざけるな！おまえなんかと付き合わない、自分の根気のなさはさておいて切れてしまうのです。取り持っていていただく方が無いことは不幸です。

けれども、今日は素晴らしい取り持ち家に恵まれました。フサタケ、アカチシオタケ、シジミタケ、モジタケ、ロクショウタケ、クヌギタケ、ヒラタケ……。見つかるキノコごとにお話されたことは、名前や生態や毒性など、説明のわかりやすさに引き込まれました。例えば、先生の手にされた一本の枯れ枝、「この丸いつぶのようなもの、これキノコです。シジミタケ。こっちにも別のキノコいますよ、このみどり色の。これロクショウタケ。こちらにはキクラゲ……。キノコの毒というのは基本的には虫対策ですよ。毒と薬は紙一重。食菌が有毒キノコになることもある。」とお話されるのです。

個人的なベストワンは、スギヒラタケについての指導をいただけたこと。わたしのキノコ本、「キノコ狩りガイドブック 1991年発行」には、おおいに食べましようと言う意味合いの解説。怪しいらしいという友人もありましたが、私は忠告も無視し前夜食べていたのです。糖尿病や腎臓疾患があって解毒機能の弱っている人には発症の可能性が高く、警戒の必要なキノコであることがわかってきて、最近の本はそう書いている。しかも、症状が出るのは3～4週間後ということ。年末にかけて要注意「あーあ」の気分です(。)

樹幹を水が流れ下る雨模様、経験した観察会の中でも一二を争う天候と先生もおっしゃっていましたが、そんな雨をものともせずキノコの世界を案内いただき、心から感謝しています。

■□インターン生の受入れ□■

8月9日から11月11日の3ヶ月間、京都大学地球環境学堂 環境マネジメント専攻修士1年生 計 彬嫻(けいひんかん)さんの受け入れを行いました。事務局不在の状況から初めの1ヶ月は、いーポート世屋しおぎり荘にて、後半2ヶ月間は合力の家に滞在してもらい、各団体の方々、住民の皆さまにお世話になりました。そして感謝の気持ちを伝えるために11月6日にはお世話になった方々に集まっていただき、食事会を開催しました。以下はその際に読まれた計さんから村の方々へのお手紙です。

三ヶ月がまたたく間にすぎた。実習はもうすぐおわり、学校に戻る。上世屋の生活はこころにのこる。ここの生活が静かい。朝、鳥の歌を歌って、起き、ドアをあけて、新しい日は始まる。村の人は仕事が始まっている。夜るとき溜まってる合力の家の二階の窓から動物の楽しい遊びを見えることできる。稲刈りとき、たまに空をみて、体の中に幸せいっぱいになって、昔村人一緒に田んぼする場面を想像した。ここはいつも驚くことがある、例えば：無農薬田んぼの中にタニシや名が知られない植物が見つかる。

上世屋は高齢化や過疎化といった問題が深刻になっている。多い人は上世屋で産業がない、働く場所がないと思う。若い



人は町へ行って仕事をして、都会の便利な生活に慣れ、たくさん仕事選ぶチャンスもあり、ほとんど田舎へ帰って来ないのが現実である。このような農村では村の伝統や昔の暮らしの知恵など、地域の特別な魅力も多く残されている。例えば：藤織り、紙漉き、無農薬米、笹葺き民家。

でも、今上世屋で地元が好きな人はいろんなことやっている。セヤノコさんぽや合力の家に参加した子供と大人たちをみて、とても楽しいと思う。子供は自然に帰るチャンスがもっと多くが必要だと思う。今パソコンばかり。稲刈り子供は食べるお米の生産方法が体験するでも、さんぽの小さい子供の無農薬で育てお米や野菜を作った美味しいご飯食べるでも、満足の笑顔をでる、他人も影響されて楽しくなった。無農薬のお米や野菜はとても美味しいだ。現代人はもっと野菜の綺麗な形注意するので、体に対して健康がいい無農薬で育て野菜やお米をおろそかにしている。

藤織り保存会は28年に続いている。日本全国から人は上世屋に集まって昔の藤織りのやり方を勉強して交流する。若い三人の女性のいとをかきは伝統な紙漉きと現代の織り布で美しいカードが作っている。加工グループはにんにくみそやもちを作って販売している。飯尾醸造は無農薬お米を原料として健康がいいなお酢を作って全国へ販売している。

地元の人も頑張っている。雅道さん一家族はたくさんことしている、お米や牛。おばあちゃんたちはとしをとってもできることやっている。心から敬服する。

冬のときは上世屋に行きたい。上世屋は白い二、三メートル雪に覆われる。特別な景色と思う。京都にいるときも近いそんな大雪のことは知らなかった。深い積雪は特別な景色だけど、村の人に対して大変な問題だ。

ここがすきだ。白井石さんは上世屋に住むことには、ストレスにたまらない、お金もたまらない、でも幸せがいっぱいたまると言った。お金がないでも仕事自分で考えて創造できる。

皆さん協力して村の将来のために、がんばる！

■お知らせ・お願い■

- ぶーたんに滞在中の山形歩さんに、ぶーたん管理や郵便物・電話対応をお願いしていますが、事務局仕事の負担が大きくなってしまったことを受けて、9月頃より3月まで小山（旧磯田）が事務局を担当させていただいています。よろしくお願いたします。ぶーたんの利用等何かありましたら、小山までお願いします。
- 団体HPが新しくなりました。まだ作成中のページもありますが、ぜひご覧いただきご活用下さい。また「こんなページ/機能があればいい」などのご提案がありましたら、お気軽に事務局までお願いします。
URL : <http://www.satoyama-net-seya.org/>
- 事務局のメールアドレスが新しくなりました。変更登録いただきますようお願いいたします。

メールアドレス : office@satoyama-net-seya.org

編集後記

初めまして／お久しぶりで
す小山です。またこの編集後記
を書く事になるとは思っていま
せんでしたが：：よろしくお願
いたします。昨年から上世屋
に家をお借りし、京都との二重
生活をしています。私が事務局
長をさせていただいたのは二〇
〇七年からでした。気づけば団
体も十周年を迎えようとして
います。確かに財政は厳しいで
すが、楽しいわくわくする活
動が続けばいいなと願っていま
す。是非またみなさんの近況
報告もお待ちしています。

今冬は雪が少なめです。2
年続いた大雪と秋に「タルイカ」
が大量にあがったことで、大雪
かも？と予想していた住民にと
つては、嬉しいことです。しかし
海沿いの地域で雪が積もらない
時も、上世屋、木子、松尾はそ
れなりの積雪です。同封した雪
かき応援隊の案内が遅くなり
申し訳ありませんが、ぜひ冬の
世屋にも足を運んでいただけ
ればと思います。

NEWS LETTER ニュースレター No.32

発行：NPO 法人里山ネットワーク世屋 理事長 飯尾毅

〒626-0227 京都府宮津市宇上世屋 560-1 TEL/FAX0772-47-3540 メール office@satoyama-net-seya.org

編集：小山有美恵

印刷協力：京都大学地球環境学 深町研究室

発送：事務局ぶーたん